士幌の廃校で和牛採卵　研修生も受け入れ　全農ＥＴ研究所　2016年12月10日

【士幌】ＪＡ全農ＥＴ研究所（上士幌、小西正人所長）は、昨年度閉校した士幌町内の旧北中音更小学校（上音更西３線）を活用し、繁殖農家が所有する和牛から受精卵を取り出す採卵事業を始める。家畜人工授精師（ＡＩ師）と家畜受精卵移植師（ＥＴ師）の養成のための研修生も受け入れ、担い手の育成にも乗り出す。

ＪＡ全農ＥＴ研究所が採卵事業のサブステーションとして活用する旧北中音更小

こうした事業に学校跡を活用するのは過去に例がなく、研修生が実習できる場も珍しい。21、22日に同施設を使った初の採卵を開始。両日中に管内酪農家に届けられ、100頭規模での一斉移植が行われる予定。

和牛子牛の生産頭数の減少と価格高騰が続いている中、生産基盤の強化が急務となっている。そこでＥＴ研が農家から和牛の受精卵を買い上げることで、繁殖農家の所得向上につなげ、増産体制を図るのが狙い。採卵された受精卵は冷凍保存され、全国の酪農家に供給される。一部は近隣地区に新鮮受精卵の形態で供給され、酪農家の個体販売収益のアップにも貢献する。

受精卵買い上げ

ＥＴ研では４月から全国各地で農家採卵事業をモデル的に展開。11月末までに900頭から１万個以上の受精卵を買い上げた。うち十勝は2000個以上。また、管内の受精卵の移植頭数は1000頭以上で、受胎率も全国平均（約50％）よりも高い60％以上を誇っている。

こうした事業を進める中で、ＥＴ研は繁殖農家が所有する和牛の採卵を増やすためのサブステーションとして活用する新たな拠点を探していたため、町が昨年度閉校になった旧北中音更小学校を提供することに。

施設名称は「ＪＡ全農ＥＴ研究所繁殖義塾」とし、体育館に牛を入れる枠を４基設置し採卵場として整備。校舎内の教室は新ＥＴチームの事務所や、研修生の講義の場として活用される。

旧北中音更小で

受け入れる研修生（農家後継者等）の研修期間はＡＩ師が２年、ＥＴ師が３年。試験牛を用いた繁殖実習や顕微鏡での受精卵の観察実習など、繁殖に関しての知識と経験を身に付けてもらい、期間中は全農の臨時職員として有給で働く。ＥＴ研では本人の希望を聞いて就職の紹介も行っていく。今後、毎年５人ほど研修生を受け入れる予定。現在は２人がＥＴ研で技術を磨いており、来年４月には５人が新たに入ってくる。

21、22日の採卵には管内の和牛25頭が運び込まれ、受精卵を採卵した後に各酪農家で一斉移植が行われる。ＥＴ研の青柳敬人上席技術主管は「農家の所得を上げるための一つのビジネスモデルとして集中採卵・集中ＥＴ事業を確立させたい」と話し、小林康雄町長も「学校が閉校してから１年以内に有効に使っていただくのはありがたい。技術者の担い手の育成にもつながれば」と期待している。

乳価１キロ当たり１～２円上げ　来年度、ホクレン　2016年12月13日

2017年度の主な用途別乳価（1kg当たり、税抜き）

飲用牛乳向け	据え置き	117円40銭
生クリーム向け	据え置き	81円50銭
脱脂濃縮乳向け	据え置き	75円46銭
特定乳製品向け（バター・脱脂粉乳など）	1円上げ	75円46銭
ハードチーズ向け（チェダー・ゴーダなど）	1円上げ	69円
ソフトチーズ向け（カマンベールなど）	2円上げ	68円

【札幌】ホクレンは12日、大手・中堅乳業メーカーとの2017年度生乳取引価格（乳価）の用途別原料乳を、脱脂粉乳・バターなどの特定乳製品向けやチーズ向けで１キロ当たり１～２円引き上げると発表した。飲用乳や生クリームなどは据え置く。平均価格（プール乳価）は、60銭高くなる見通しだ。引き上げは２年ぶり。

ホクレンの全取引先151社のうち、道内で取引のある大手・中堅乳業15社と合意したことを受けて発表した。全取引業者との合意を得て、正式決定する。

用途別では、特定乳製品向けが現行価格（74円46銭）から１円（消費税抜き）引き上げる。チーズはゴーダ、チェダーなどのハード向けが現行（68円）から１円、カマンベールなどのソフト向けは現行（66円）から２円それぞれ引き上げる。

ホクレンは「北海道の生産基盤の確保と生乳生産拡大のために所得確保が重要であることを乳業会社に理解してもらい、早期に決着した」としている。道内の平均的な酪農家（年間生産量650万トン）で39万円の増収になるという。年内の乳価決着は過去10年で最も早い。